

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

日本武道学会第48回大会開催





本部企画シンポジウム

日本武道学会第48回大会

中学校武道授業について 本部企画で3年間の成果を検証

日本武道学会第48回大会が9月9日・10日の2日間、東京・日本体育大学世田谷キャンパスにて開催された。

初日の午後は、武道学会総会、松浪健四郎日本体育大学理事長による基調講演「東西の武闘家たちの思想——朝鮮とペルシアから——」が行われ、本村清人氏をコーディネーターとする本部企画シンポジウム「中学校武道実施への対応——指導成果の検証——」が実施された。

また、2日間を通して午前中は、人文・社会科学系、自然科学系、武道指導法系、ポスター発表の形式に分け、計86の一般研究が発表された。2日目の午後は、空手道、剣道、弓道、障害者武道、なぎなた、柔道の専門分科会が行われた。

総会

9日午後1時より平成27年度総会が袴田大蔵大会委員長（日本体育大学副学長）の司会で始まった。

総会に先立ち、谷釜了正日本体育大学学長より挨拶があり、優秀論文賞の授与がなされた。優秀論文賞に



基調講演を熱心に聴き入る学会会員たち



基調講演を行う松浪健四郎氏

は、人文・社会科学系から軽米克尊氏（筑波大学）による「直心影流の分派についての一考察―長沼派・藤川派・男谷派の試合・修練形態ならびに剣術観の分析を通して―」、武道指導法系から福田啓子氏（皇學館大学）による『リズムなきなた』の発祥から伝播・発展に関する研究」が選ばれ、百鬼史訓^{なきりふみのり}日本武道学会会長からそれぞれ表彰を受けた。

続いて百鬼会長より、総会開会の辞が述べられた。

「今回で本大会は48回目となりました。49回目は三重県・伊勢市の皇學館大学を予定しており、2年後の50回大会は、記念大会と位置づけ、記念事業の実施を考え、現在、準備を進めております。今後、国際学会を含め、充実した計画を立てていきたいと存じます。我々の使命は学術研究であります。成果を社会に活かすことも大きな使命になっております。本大会では、今まさに社会的に成果が問われている平成24年度から必修となった中学校武道授業の検証をいたします。このシンポジウムにおいて、実りある議論がなされることを期待いたします」

続いて、石井隆憲氏（日本体育大学）と山口香氏（筑波大学）が議長に選出され、議事が進められた。初めに名誉会員の推挙があり、日本武道学会北信越支部の湊谷弘氏を名誉会員とすることが承認された。続いて、平成26年度事業報告書案・平成26年度決算書案、平成27年度事業計画書案・平成27年度予算書案が審議・承認された。最後に、来年の第49回大会が、平成28年9月8日・9日、皇學館大学（三重県伊勢市）で開催されることが承認された。

基調講演

午後2時より、日本体育大学理事長・松浪健四郎氏の基調講演「東西の武闘家たちの思想―朝鮮とペルシアから―」が行われた。

古代ペルシアには「パフレバーン」と呼称される「ペルシアン騎士道」がある。「ペルシアン騎士道」とは何か、どのような思想・哲学があるのか。それを説明するため、『王書』（シャー・ナーメ）から騎士ロスタムの伝説を語った。戦争の最中、敵国の武将である自分の息子と

決闘することとなった騎士ロスタム。激闘の末、息子を殺したロスタムは、今でも現地で英雄と崇められている。ペルシアン騎士道は、我々の武道とは異なる点も多い。しかし、己の命・大切なものを捨ててでも国・主君を守り抜くこと、自己犠牲が日本武道との共通点ではないだろうかと結んだ。

本部企画シンポジウム

午後3時から、本部企画シンポジウム「中学校武道実施への対応―指導成果の検証―」が行われた。まず、豊嶋建広日本武道学会企画委員長よりシンポジウムの主旨を「昨年、文部科学省では全国の都道府県・市区町村教育委員会及び中学校に対し、武道授業に関するアンケート調査を行った。本村清人氏を代表とする調査研究協力者会議によりその報告書が本年3月に刊行されたのを受け、調査の対象種目である柔道、剣道、相撲の本大会専門分科会パネリストに調査結果を説明してもらおう」ともに、今後の課題・方策について議論していきたい」と説明。

本村清人日本武道学会副会長（公益財団法人日本学校体育研究連合会会長）をコーディネーターとし、柔道専門分科会より磯村元信氏（都立秋留台高等学校）、剣道専門分科会より柴田一浩氏（流通経済大学）、相撲専門分科会より満留久摩氏（都立足立新田高等学校）の3名をパネリストに中学校武道必修化の成果と今後の課題について発表があった。

◇

初めに、本村氏より文部科学省委託事業「武道等指導推進事業（武道等の指導成果の検証）」調査報告書（平成27年3月、調査研究協力者会議）に基づいて、調査結果の中核的な概要（ダイジェスト版）の全体説明がなされた。

主な特徴としては、都道府県・政令指定都市教育委員会に対する調査内容の武道場設置状況については調査対象6165校の内、武道場を設けている中学校数が60・6%となっており、5年前の48・3%から約12%の改善が見受けられる。市区町村教育委員会に対する調査内容の武道段位取得者数では、柔道の五段以上取得者比率は、男性教員で2・8

%、女性教員で0・5%であり、一方、剣道・相撲の五段以上取得者比率は、剣道で男性教員18・7%、女性教員16・4%、相撲で男性教員10・8%、女性教員33・3%となっており、剣道・相撲において高段者の教員が多いことが見受けられる。武道授業の実施状況について、第1学年・第2学年のいずれの学年でも実施している学校数が男子89・7%、女子85・4%となっており、ほとんどの学校で1・2学年の2年間を実施している。また、第3学年でも武道を必修で実施している学校数はほぼ半数の、男子53・4%・女子46・7%と高い数字となっている。武道用具の整備状況について、「十分に整備されている」「ほぼ整備されておらず授業が実施可能」な学校数は、柔道66・2%、剣道40・9%、相撲6・6%となっており、剣道、特に相撲については用具整備に課題が残っている。しかしながら、平成20年の同事前調査によると、柔道48・6%、剣道23・2%、相撲2・7%となっており、7年前と比較すると用具の整備状況は3種目とも大幅に改善され、充実しつつある。

次に磯村元信氏より柔道授業の調査結果が報告された（抽出中学校176校、教員176名、生徒5577名）。柔道の主な特色として、柔道を専門としない教員が91・5%となっており、柔道を専門としない教員が授業を行っている実態が浮かび上がっている。授業内容の関心・意欲・態度では、全般的に男子より女子の方が数値が高くなっているが、柔道を楽しむ・愛好的態度については女子の方が低い数値となっており、課題が残る。柔道の歴史・成り立ちの理解については男女共に低い値となっている。技能について、指導している技の習得状況は悪く、およそ6〜7割である。要因としては、授業時数と指導力の不足が目立つ。生徒が習得していると自身で感じている技は、大外刈りの77・4%が最多となっており、注意を要する。これらのことから、従来の技能を中心とした技を教え込む授業から、生徒の能動的な態度や思考・判断を重視した授業が今、求められている。

続いて柴田一浩氏より剣道授業の調査結果が報告された（抽出中学校181校、教員181名、生徒5549名）。剣道授業を実施している教員の内、剣道を専門としている教員が22・8%となっており、柔道・相撲に比べて数値が高い。また、五段以上の教員も多く、剣道では高段者が授業を実施している傾向にある。しかし、剣道授業が好きであるという生徒の肯定回答比率は53・6%となっており、剣道授業をいかに興味を持ってもらうかが今後の課題となっている。また、基本となる技（小手抜き面等）の習得率の肯定回答は教員・生徒とも6割を下回り、課題が残る。その要因としては、授業時数、指導力不足が挙げられている。また柴田氏は、自身が様々な教員と情報交換する中、生徒は練習した技を授業での試合に活かすことができないという課題が見えてきたことを説明。その改善に向けての方法として、①いつ、どの部位を、どのように打てばよいのか理解しやすくする教材を取り入れる、②技を機会で教える、③技の動き作りの学習を段階的に教えることを挙げた。

続いて満留久摩氏より相撲授業の調査結果が報告された（抽出中学校30校、教員30名、生徒946名）。調査



パネリストたち＝満留久摩氏、柴田一浩氏、磯村元信氏



コーディネーター＝本村清人氏

の結果、相撲授業を実施している教員のほとんどは相撲を専門としておらず、少ない指導経験で授業を行っていることが分った。全体的に相撲の指導・習得状況はともに十分でなく、「課題解決のための練習方法」が相撲授業においてうまく展開されていないという課題が見えてくる。

また、「押し」「寄り」に特化した技能指導でも簡易試合まで行えるのが相撲の特徴であるが、そのことが生徒にとつての楽しさにつながっていない。相撲の場合、「簡易試合ができること」を最終的な目的とせず、簡易試合を初期段階から行える特徴を活かし、生徒の関心意欲を喚起しながら、簡易試合が次の技能習得に向けた契機となるような授業づくりが求められている。



シンポジウムが終わると、質疑応答が行われた。聴講者からは、「そもそも、武道はスポーツとは発生が異なるものである。しかし、武道授業でも、スポーツと同じ楽しさを目指す方がいいのか、スポーツとは異なる点を目指すものなのか」との質問があった。これに対し柴田氏より「予

測、読みなど武道ならではの楽しみはあると思うが、導入では攻防の運動を楽しむことではないのではないかと、武道を楽しみながら学習する過程で、感謝の気持ちなどを学び、到達する先に武道固有のものがあればいいと思う」。磯村氏からは「格闘する要素は武道固有の楽しさだと思う。女子では投げられた時の非日常的な浮遊感を楽しんでいる生徒もいる。このことでも武道の楽しさを味わってもらうことになるのではないか」。満留氏からは「授業での楽しさは学習指導要領での楽しさであるので、混同しても構わないと思う。ただし、その楽しさの先に対人技能等の武道固有の要素を理解する機会があればいいと思う」と答えた。

最後に本村氏より、「今回、3武道の調査報告であったが、共通する課題が多かったように思う。技能指導の割合、愛好的態度をどのように養うかなど踏まえて、教材開発、年間計画、3年間の計画を作成しなければならぬ。この調査報告を基に、次の学習指導要領改訂を見据えて、各機関に対し提言をしていきたい」との発言があり、会は終了した。

一般研究発表

一般研究発表は各日午前中に行われた。2日間で人文・社会科学系23題、自然科学系24題、武道指導法系18題、ポスター発表21題が行われた。以下発表の一部を紹介する。

〈人文・社会科学系〉

▽小崎亮輔 順天堂大学大学院ほか
「中学校柔道履修者を対象とした柔道授業の効果の検証」

柔道を履修した生徒（4校、約1200人）を対象に、柔道授業の影響や効果を調査した。32項目の無記名式質問紙法で実施。質問への回答は、肯定2件と否定2件の合計4件で求めた。959通の回答を得て、残差分析を行った。

その結果、6項目が肯定的意見として、8項目が否定的意見として抽出された。

その他、ロジスティック回帰分析とクラスター分析を行った結果、柔道固有の技能を習得できていないと感じている、また柔道に危険性を感じている生徒が多い、前回り受け身



一般研究発表の様子

の習得は、柔道の授業への肯定感に
関連していることが示唆された。

〈自然科学系〉

▽高田博文（順天堂大学大学院）ほか
「柔道競技における中断時間の有効
な行動選択についての考察」

柔道競技の試合時において、主審
の「マテ」から「ハジメ」までの試
合に組み込まれない時間帯（中断時
間）が存在する。柔道の1試合をフ
ルタイムで戦うと、中断時間約10秒
を12回繰り返し（120秒）と報告され
ている。そこで、中断時間の有効な

行動選択について、調査・分析した。
研究調査では、男子柔道部の学生
10名に、背負い投げのスピード打ち
込み15本を12セット繰り返しもら
った。セット間の休息（10秒）では、
軽度な運動群（足踏み20回）と立位
群（立ったままの状態）に分かれ、
打ち込み終了後、スピードの打ち込
み秒数、乳酸値、心拍数、自覚的運動
強度を測定した。その結果、両群間
の柔道競技におけるパフォーマンス
は変わらなかった。しかし、内省報
告によると、軽度な運動群は肯定的
な意見が17、否定的な意見が6であ
り、立位群は肯定的0、否定的23で
あった。中断時間10秒では、柔道の
パフォーマンス及び生物学応答に影
響はないが、軽度な運動をすると精
神的に前向きになると考えられる。

〈武道指導法系〉

▽立野龍太郎（福岡教育大学大学院）ほか
「対人的攻防の醍醐味を味わう剣道の
授業展開に関する研究―学習者の思考
力・判断力の高まりに着目して―」

「オリジナルの攻撃展開作り」を行
う剣道の授業展開が学習者の思考
力・判断力の高まりにどのように影

響するかに着目し、調査・検討した。
授業実践は、2クラスの生徒70名
を対象とし、全8時間で構成され、
剣道を専門実技としない保健体育科
教諭2名で行われた。

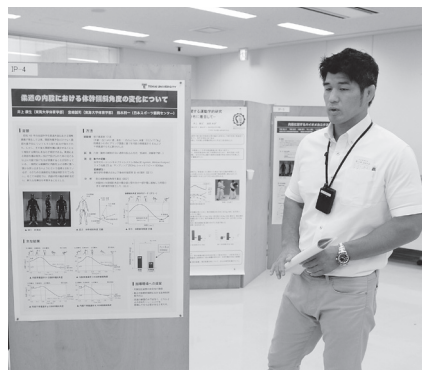
授業は、対人的技能の学習との関
連で個人的技能の習得・習熟を目指
すべく、タスクゲームとドリルを往
還しながら進められた。結果、運動
有能感（運動や自分に対する自信）
について2クラスとも有意な向上が
認められた。学習者の意欲的・積極
的な取組により、比較的多くの課題
を遂行させ、さらに学習の質的な高
まりを図り得ることが推察される。

〈ポスター発表〉

▽井上康生（東海大学准教授）

「柔道の内股における体幹傾斜角度
の変化について」

柔道の取りの頭部外傷件数の多い
技である内股について、技を掛けた
時の体幹傾斜角度と怪我の関係につ
いての調査報告が行われた。発表で
は、内股の得意な選手、不得意な選
手が技を掛けた時の体幹傾斜角度を
比較。内股の得意な選手の方が、よ
り体が安定していることが示唆され



ポスター発表を行う井上康生氏

た。今回の調査結果を活かして、ケ
ガを防ぐ新たな指導法の確立を目指
して研究を行う旨、報告された。

専門分科会

10日の午後は、専門分科会が開か
れた。空手道、剣道、弓道、障害者
武道、なぎなた、柔道の各分科会ご
とに講演や発表、デイスカッション
などが行われた。

▽空手道専門分科会

「沖縄県における中学校武道の空手
道採用状況について―近代沖縄の学
校教育への空手導入を手がかりに
―」として、嘉手苅徹氏（琉球大学

非常勤務講師)による発表がなされた。

沖縄県における中学校武道必修化での種目選択は、空手道が83%と圧倒的な採用率を誇る。全国では2%に満たない状況であるにもかかわらずこれほどまでに高い数値を記録しているのは何故なのか。

その理由は、近代沖縄における空手発祥の歴史的背景、学校教育への導入と地域行事等との結びつきにあり、他では見られない状況を生み出していると、考察した。

豊嶋建広氏(麗澤大学教授)は「空手道と健康―認知症予防としての中高年のための空手道―」を発表。

高齢化社会と言われて久しい現代日本において、認知症患者の数は460万人、予備軍は400万人と言われている。しかし、有酸素運動や知的活動、余暇活動を行う人々は認知症の発症率が低いことが分かっている。ここでは、空手道を認知症の予防手段とする可能性を探った。

▽剣道専門分科会

「剣道とマスメディア―テレビ放送から見た剣道―」とし、太田雅英氏(NHKアナウンサー)による発表

が行われた。

太田氏は剣道のテレビ放送における苦勞について、テレビにおける剣道中継では一瞬の打突で勝負が決まるので一本が分かりにくい、選手の顔が見えない、試合中に間がないなど、他のスポーツと比較して中継には困難が伴う。それらを解消する為にスロー再生を導入するなど剣道未経験者でも楽しめる番組を作ること、に腐心していると述べた。最後に、試合中に互いの剣先が触れてピリピリしている空気や、勝敗だけではない剣道の魅力を視聴者に伝えたいと今後の意気込みを語った。

▽弓道専門分科会

佐藤明氏(東北大学)による「射法の高関節運動系としての曖昧性と秩序化」の発表が行われた。

射技は再現性の高い動作を介して矢を的に中てる運動だと定義し、多関節で自由度の高い身体を合理的な規則に従って統合していくことが課題であるとした上で、無秩序な運動に秩序を与え、目的の動作を達成するために何をすべきかを考察した。

▽障害者武道専門分科会

「社会の進歩と共に変わる障害者武道の明日を考える―中学校武道必修化で実現させるインクルーシブ教育―」と題し、障がい者による武道と健常者による武道の「包括化」のあり方を探った。

パネリストとして、徳安秀正(東京有明医療大学講師)、濱名智男(日本文化大学講師)、久保山和彦(日本体育大学准教授)、松井完太郎(国際武道大学教授)の4氏を迎え、森脇保彦氏(国士舘大学教授)をコーディネーターとして、討論会を行った。

▽なぎなた専門分科会

佐藤智尚氏(文化学園大学杉並中学・高等学校教諭、なぎなた部顧問)を講師とし、「武道必修化―なぎなた指導の成果と検証―アクトイブラーニングの実践―」と題して、自身がなぎなた部で実践しているアクトイブラーニング(思考を活性化する学習形態)を紹介した。

生徒には、適切な負荷を与えながら、達成感を感じさせることが大切であると発表した。

▽柔道専門分科会

「受身の最新研究から学校柔道安全確保の道を探る」と題して、桐生習作氏(公益財団法人講道館)司会のもと、藪根敏和氏(京都教育大学教授)と村山晴夫氏(独協医科大学准教授)を講師とし、発表が行われた。

藪根氏は、よい受身動作とその学習法を発表。畳との衝突の際、身体に受ける衝撃を分散させる動作法を理解させ、習得させるための授業展開を説明。具体的には、教具を用い相手の力を感じ、抵抗せずにその方向に身を任せ、低い位置で投げられる練習法等を例示した。

村山氏は、投げられた際に生じる頭部衝撃力をダミー人形と柔道熟練者として測定・比較分析した。柔道熟練者の数値は、ダミー人形より有意な低値を示した。投げられた際、適切な受身技術を行うことで頭部に生じる衝撃力を低減できると述べた。



自然科学系

演 題	発表者	所 属
武道・スポーツにおける「慣性力」の意味と重要性	坂井 伸之	山口大学理学部
下肢は剣道の打突速度にどの程度貢献するのか	椿 武	神戸親和女子大学
剣道競技者の構えから打突に至る過程の神経生理学的研究 —室内モデル実験を用いて—	川井 良介	筑波大学大学院 人間総合科学研究科
筋電計測から見た剣道の身体運動における経験者と未経験者の違い	西畑 大輔	福井大学大学院工学 研究科知能システム 工学専攻
武道競技者の踏み込み動作における下肢筋電図活動パターンの解析	麓 正樹	東京国際大学
剣道の応じ技に現れる技術的差異	高橋健太郎	関東学院大学 理工学部
少年剣道実践者による剣道用試作マットの主観的評価	池田 孝博	福岡県立大学
柔道背負投の技術的指標に関するバイオメカニクス的研究	石井 孝法	了徳寺大学
柔道における受の防御が背負投動作に及ぼす影響	近藤 俊	筑波大学大学院
柔道競技における中断時間の有効な行動選択についての考察	高田 博文	順天堂大学大学院
柔道形強化選手の心理的競技能力に関する研究	横山 喬之	摂南大学
大学柔道選手と他の運動選手の内転外転筋力の比較	久保田浩史	岐阜大学
全国中学校柔道大会における体力測定に関する研究：2000-2014 年 の中学生柔道選手を対象として	佐藤 武尊	皇學館大学
柔道選手における ACTN3 および ACE 遺伝子多型とパワー発揮の 関係について	竹内 優香	東京学芸大学大学院
大学生の運動部活動（柔道）中における熱中症の予防と対策	菊川 顕	岡山大学大学院
大学女子柔道選手の傷害発生状況	佐藤 康宏	帝京大学
柔道受け身時の頭頸部変位と頭部傷害基準との関係	河鱈 一彦	関西学院大学 人間福祉学部
柔道の後ろ受身を模擬する頭頸部数値モデルの開発	田村 篤敬	鳥取大学
柔道の受け身動作遂行時における頭部衝撃評価	村山 晴夫	獨協医科大学
男子大学柔道選手の打込における持久力トレーニングの検証 —大内刈を対象として—	窪田 友樹	関東学園大学
高気圧高酸素環境下への急性曝露に対する生体応答	竹澤 稔裕	関東学園大学
Special Judo Fitness Test と 新たに考案する Uchikomi Shuttle Run Test との相関について	曾我部晋哉	甲南大学
剛柔流空手道基本形サンチンおよび開手形セーサン演武時の脳血流 変化の比較	藤枝 賢晴	福井医療短期大学
高校男子剣道選手における血中乳酸動態と機械的出力パワー	山本 憲志	日本赤十字北海道 看護大学

一般研究発表演題・発表者一覧①

人文・社会科学系

演 題	発表者	所 属
福岡藩高田新左衛門家と会津藩における宝蔵院流高田派の伝書大系と術技に関する考察	石川 哲也	全日本槍術連盟
統治時代の台湾における弓道について—雪荷派弓術と川島堯—	松尾 牧則	国際武道大学
「紅葉重ね」に関する一考察	黒須 憲	東北学院大学
剣道具から見た剣道の技術史—幕末・明治期に着目して—	坂本 太一	岐阜薬科大学
道具着用剣術の伝播に関する研究 ～文化7年羽州天童に於ける心地流と神道無念流との相克～	三苫 保久	滋賀県立 瀬田高等学校
嘉永4年の藤堂邸における剣術試合の様相について	森本 邦生	広島県立 佐伯高等学校
一刀流の「三重」について —元禄期の小野家・津軽家伝書に基づく研究—	立木 幸敏	国際武道大学
山本勘助著「兵法秘伝書」を読む（その2）	内田 建也	山梨支部
The way of the sword as a path to human character development : Swordsmanship as a tool to forge oneself	Andrea ILIE	明治大学研究生
明治16年の「撃剣柔術調査」について —柔術・当身技の調査に着目して—	久保山和彦	日本体育大学
嘉納治五郎清國巡遊記考 其三 —武漢・長沙に於ける交友関係を中心にして—	東 憲一	東京外国語大学
旧東ドイツにおける柔道の受容に関する研究 —青少年を対象にする指導法を中心に—	マーヤ・ ソリドーワル	津田塾大学
フランス人柔道修行者の柔道に対する意識構造について —柔道に対する態度に着目して—	濱田 初幸	鹿屋体育大学
中学校柔道履修者を対象とした柔道授業の効果の検討	小崎 亮輔	順天堂大学大学院 スポーツ健康科学 研究科
日露のサンボ競技における国際交流が選手強化に与えた影響	松本 秀彦	日本体育大学
大日本帝国剣道形増補加註の制定過程における討議内容の解明とその分析：近藤知善筆の討議記録に基づいて	矢野 裕介	神戸医療福祉大学
大正・昭和前期の師範学校・中学校の武道普及状況に関する一考察 ～文部省教育統計調査資料集成を手がかりに～	宮地 広樹	大阪教育大学大学院
戦時下における武道論の諸相：昭和14（1939）年の武道振興委員会に着目して	中嶋 哲也	茨城大学教育学部
韓国剣道における審判に関する研究—5人制審判法の改善—	加藤 純一	文教大学教育学部
国際化に伴う剣道の価値に関する研究Ⅲ —日本剣道 KENDO と韓国剣道 KUMDO の世代間の相違から—	小田 佳子	東海学園大学
中華人民共和国における剣道の普及過程と現状について	渡邊孝士郎	筑波大学大学院 人間総合科学研究科
剣道における女子大学生の競技力に関する研究～全日本女子学生剣道優勝大会における上位チームの選手構成に見る個々の競技実績が結果に与える影響及びその関連性についての研究～	桜井 美子	神奈川大学
小手打撃時の攻防精度の熟練	大山 達彦	東京学芸大学

ポスター発表

演 題	発表者	所 属
大学柔道指導者の選手との心理的距離感と競技成績との関係	木村 周平	びわこ成蹊 スポーツ大学
大学柔道部員の背負い投げ時における注意の所在に関する研究	渡部 将之	大阪産業大学
武道で教える「日本の伝統文化」の実践—留学生を受け入れて—	平田 佳弘	環太平洋大学
柔道の内股における体幹傾斜角度の変化について	井上 康生	東海大学体育学部 武道学科
内股に関するバイオメカニクスの研究	羽賀龍之介	東海大学大学院 体育学研究科
背負投の崩しに関する運動学的研究—受の体重分布に着目して—	射手矢 岬	東京学芸大学
ドスコイバーを用いた押し動作の運動学的研究	齊藤 昌幸	東京学芸大学大学院
Special Judo Fitness Test における試技の違いの影響	石橋 剛士	熊本学園大学
柔道における頭頸部外傷予防プログラムの検証	奥村 達郎	東海大学大学院 体育学研究科
足趾力と柔道の戦績及びスポーツ傷害の発症との関係について	小嶋 新太	日本体育大学
よい抑え込み動作の究明と抑え込み評価基準の作成	藪根 敏和	京都教育大学
柔道の授業における戦術学習の提案	小澤 雄二	熊本大学
中学校柔道授業における生徒の学習成果のパターンをもとにした類型化	山本 浩二	神戸医療福祉大学
体育授業における柔道のイメージについて —工業高等専門学生を対象にして—	岡村さやか	東京学芸大学大学院
柔道選手の筋力のトレーナビリティと ACTN3 遺伝子多型の関連性について	上水研一朗	東海大学体育学部
血流制限下における技術トレーニング効果の検討 —内分泌系に与える影響—	大川 康隆	東海大学
重量級選手における心肺機能特性とその向上について	石井 勇人	東海大学大学院 体育学研究科
大学生・高校生弓道選手のポジティブ特性を規定する要因及び因果モデルの構築	坂元 京子	熊本大学大学院
弓道の道具の操作イメージと実運動の比較検討	木村 陽子	北海道大学教育学院
空手道選手の心理的競技能力と首尾一貫感覚の関係	谷木 龍男	清和大学
空手の組手における間合いに関する研究	大徳 紘也	大東文化大学

一般研究発表演題・発表者一覧②

武道指導法系

演 題	発表者	所 属
正課体育柔道の授業における大学生の武道に対するイメージの変化：通年型と半期型の比較	桐生 習作	公益財団法人 講道館
柔道授業の危険場面の認識	山崎 元太	東京学芸大学大学院
柔道指導者講習会における受講の有無が安全管理に与える影響	大辻 康太	横浜国立大学大学院 教育学研究科
柔道競技における前回り受け身についての一考察	日向野泰彬	順天堂大学大学院
高校柔道選手の指導者に対する信頼感の競技レベルによる差異	金丸 雄介	了徳寺大学
武道における「柔の理」の定着度に関する調査 —柔道・柔術・レスリングの比較—	有山 篤利	兵庫教育大学大学院
形の技能評価原論（9）—「水流」の理合いについて	村田 直樹	公益財団法人 講道館
動きを学ぶ剣道学習の提案 —竹刀を用いない学習プログラムの効果—	村崎謙志朗	兵庫教育大学大学院
二刀構え足前に関する理論的考察	山口 正人	弘前大学
段階的剣道指導法の検討	木原 資裕	鳴門教育大学
剣道の打突動作と「起こり」に関する研究	今福 一寿	明星大学教育学部
大学剣道選手の正面打突動作に関する研究 —個人差や指導ポイントとなる身体部位に着目して—	木村 悠生	茗溪学園 中学校高等学校
剣道選手の打突と踏み込みの時間差について	竹中健太郎	鹿屋体育大学
中学校武道必修化に対応した剣道教材の開発	柴田 一浩	流通経済大学
対人的攻防の醍醐味を味わう剣道の授業展開に関する研究—学習者の思考力・判断力の高まりに着目して—	立野龍太郎	福岡教育大学大学院
国際柔道連盟試合審判規定の改正が競技内容に及ぼす影響：グランプリ・デュッセルドルフ 2013 から 2015 の比較	三宅 恵介	中京大学
ルール変更に伴う競技内容の分析（その2） —全日本柔道選手権大会・皇后杯全日本女子柔道選手権大会（2009－2012 年大会）を対象として—	坂本 道人	福岡大学
ロンドンオリンピック以降の国際柔道大会における競技分析 —ロシア・韓国男子選手を対象に—	川戸 湧也	筑波大学大学院



天皇盃第66回全日本男子弓道選手権大会

土佐正明 教士八段 千葉 再び頂点へ

天皇盃第66回全日本男子弓道選手権大会・皇后盃第48回全日本女子弓道選手権大会が、9月18～22日、三重県伊勢市にある神宮弓道場で開催された。全国各道府県の代表である男子109名・女子105名がそれぞれ出場し、鎬を削った。

男子は土佐正明教士八段（千葉）が16年ぶり二度目の天皇盃を手にした。最高得点賞は荒川博行教士七段（北海道）が初受賞。女子は小牧佳世教士六段（京都）が29年ぶりの優勝に輝き、最高得点賞は斉藤美智子教士七段（静岡）に与えられた。

大会は天候に恵まれ、盛大に催された。また、折しも5連休に重なり、連日多くの弓道ファンが詰めかけ、弓道日本一が決まる瞬間を見逃すまいと、熱戦を見守った。

男子

9月18～20日

18日に伊勢神宮への参拝、開会式、矢渡が行われ、19日に109名が出場して予選が行われた。

予選は男女とも一手(2射)2回を行い、2中以上で、採点制による得点上位20名が翌日の決勝戦に進む。前回・前々回と最高得点賞だった土佐正明(千葉)は、2中で得点が1516点。一方の荒川博行(北海道)は、3中で1516点と土佐に並び、的中数で上回った荒川が最高得点賞を獲得した。前回優勝の平澤敏弘(長野)は、1478点とわずかに3点足りず、決勝進出を逃した。

20日の決勝には、ほかにも才川義昭(大分)、細川孝夫(福井)、川名修徳(宮崎)、吉澤喜芳(埼玉)、正法地清(広島)といった過去の選手権者も多く名を連ねた。

決勝は男女とも、一手5回の中制で争われる。序盤から外す選手が多く、4回目(8射)が終わった時点で、皆中は、佐藤史成(青森)と

土佐の2名のみとなった。

最終回、奇しくも同じ立の両者。

初優勝を目前に先に引いた佐藤が9本目を外す。続く土佐は、9本目を冷静に的中させる。

そして10本目。緊張感が漂う中、佐藤は落ち着いた様子で的中させ、9中で終えた。優勝経験のある土佐は、冷静さを保ち、淡々とした様子で10射皆中を決める。と同時に、静まり返った観客席から大きな拍手がわいた。土佐は、23回目の出場で天皇盃を再び手にした。

続いて、4位と5位を決める遠近競射が、8中の荒川、朝田晋輔(静岡)、大隅雅成(鹿児島)の3名で行われ、大隅の4位、荒川の5位入賞が決まった。

最後に、2位と3位を決める遠近競射に移った。9中の佐藤史成、小原裕幸(島根)の同じ立同士の2名により争われた。その結果、小原が2位、佐藤が3位に入賞した。

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
1	小林 憲二	新潟	4	1504	4	○	×	×	○	○	○	○	○	○	×	7		
2	佐々木光彦	秋田	4	1498	6	×	×	○	×	○	×	○	○	○	×	5		
3	清水 義正	岩手	3	1494	8	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	3		
4	正法地 清	広島	2	1484	16	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	7		
5	坂元 陽一	岡山	3	1490	11	×	○	×	○	×	○	×	○	○	○	6		
6	佐藤 俊彦	長崎	3	1485	14	○	×	×	○	○	○	×	○	×	○	6		
7	吉澤 喜芳	埼玉	4	1491	9	○	×	×	○	×	○	○	×	×	○	5		
8	荒川 博行	北海道	3	1516	1	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	8	2	5
9	細川 孝夫	福井	4	1504	5	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	7		
10	川名 修徳	宮崎	4	1511	3	×	×	○	×	×	×	○	×	○	○	4		
11	多湖 賢治	三重	2	1487	13	○	○	×	○	○	×	○	○	×	○	7		
12	松原 剛志	富山	4	1483	17	×	○	×	×	○	×	×	○	○	○	5		
13	佐藤 史成	青森	2	1487	12	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	9	2	3
14	小原 裕幸	島根	3	1484	15	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	9	1	2
15	土佐 正明	千葉	2	1516	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		1
16	朝田 晋輔	静岡	4	1490	10	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	8	3	
17	大隅 雅成	鹿児島	4	1498	7	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	8	1	4
18	野中 秀治	大阪	3	1481	19	○	×	○	×	○	○	○	×	○	○	7		
19	才川 義昭	大分	3	1482	18	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	6		
20	角坂 憲次	東京	2	1481	20	×	×	○	×	×	○	×	○	○	×	4		



第3位＝佐藤史成教士六段（青森）



第2位＝小原裕幸錬士六段（島根）



最高得点賞・第5位＝荒川博行教士七段（北海道）



第4位＝大隅雅成教士六段（鹿児島）

日本武道館に掲揚されている日本最大級の日の丸
全日本少年少女武道錬成大会 刺繍旗

の実績

社旗 校旗など
各国国旗
のぼり・応援幕・バナー
タスキ・腕章・半纏など
トロフィー・楯・徽章
デザイン作成もいたします



早稲田大学応援部 慶應義塾大学応援指導部 立教大学応援団



株式会社 三上旗店 (創業明治五年)

ご用達

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-12-6 三上ビル

TEL:03-3663-8841 FAX:03-3664-8108 Mail:info@mikami-flag.co.jp URL:www.mikami-flag.co.jp



男子入賞者Ⅱ（左から）荒川、佐藤、土佐、小原、大隅

入賞者喜びのコメント

◎優勝Ⅱ土佐正明教士八段（千葉）

「嬉しいですよ。師匠の柴田猛先生に言われた通りに引いただけです。今年は柴田先生が全日本弓道連盟の会長になってはじめての大会で、柴田先生への恩返しという意味でも優勝したいという気持ちでした。また、教士八段になったのでそろそろ出場するのをやめようと思っていました、その最後にといい思いもありました。もちろん実際に優勝できたかどうかはやってみないとわからなかったのですが、とにかく淡々と引くだけでした。座右の銘は、故村上久範士がおっしゃっていた『尽くして求めず』です。弓の競技をする上では、会で詰合・伸合に徹し、結果を考えないで離れるように、ということを意識しました。今後はさらに上の射を目指すだけです」

○2位Ⅱ小原裕幸錬士六段（島根）

「決勝は、あまり欲を出さずに全力を出せば良いなと思っていました。前後の先生方がかなり中てこら

れて、その状況で外せないという緊張感の中、早い段階で外れたものの、そこから最後まで諦めずに自分の射ができました。

弓道を始めたきっかけは高校の部活です。続けていく内にのめり込み、弓の面白さに触れて、もつと極めたという気持ちが出てきて、15年続けています。今回は、技術的にも精神的にも未熟なところがあると実感したので、そういったところを今後改善していければいいかなと思います」

▽3位Ⅱ佐藤史成教士六段（青森）

「嬉しいけど嬉しくないという複雑な心境です。今まで苦労は語り尽くせないほどあります。今年は全然矢が飛ばせなくなる、いわゆるイップスに苦しみました。それが相変わらず今も続いているという感じで、今大会では一か八かという状態でした。今後の目標は、優勝した土佐先生を越えるような射手になることです」

▽4位Ⅱ大隅雅成教士六段（鹿児島）

「5年ぶりに選手権に出られたこと

も嬉しかったですし、さらに、4位入賞できて良かったのですが、出来栄としては、3回出場した中で今回が一番良くなく、自分でも納得する射ができませんでした。それでも入賞できたのは、何かの巡り合わせだと思います。今後は継続して選手権に出られるようにしたいです」

▽最高得点賞・5位

Ⅱ荒川博行教士七段（北海道）

「普段通りに引ければという思いでした。その結果が良かったのだと思います。最高得点賞は初めて受賞しました。過去入賞は3回ありましたが、自分の中では、最高得点賞を大きな目標としていたので、18回出場した中では、今回が一番良い出来です。

決勝では、最高得点賞になったことは忘れ、優勝できなくても、入賞できるようなベストは尽くしたいという思いで臨みました。普段は練習時間をあまり確保できない分、一本一本を大切に引くことを意識しました。今後は、最高得点賞に恥じないしっかりとした弓を引いていきたいと思っています」



う スポーツの力を東北へ!

全日本男子弓道選手権大会
全日本女子弓道選手権大会

皇后盃第48回全日本女子弓道選手権大会

小牧佳世 教士六段
(京 都)
29年ぶりの栄冠

女子

9月20、22日

20日、快晴の空のもと、開会式と失渡が行われた。

21日に行われた予選には、105名が出場。前回優勝の蕪木由紀枝（福島）は2中で得点も1471点と伸びず、19位での通過となる。過去4回の優勝経験者で、前々回最高得点賞の齋藤往子（東京）は2中、得点は1489点で2位通過となった。

これまでの最高得点受賞者たちを抜いて最高得点を取ったのは、4中で1493点の斉藤美智子（静岡）だった。斉藤は過去に一度優勝経験を持つが、最高得点賞を受賞するのは今回が初めてのこと。

22日の決勝、3回（6射）が終わり、ここまで小牧佳世（京都）のみが皆中。4回目、小牧の甲矢が的中すると客席がどよめいた。乙矢も的中させるとより一層、どよめきと拍手が大きくなった。

最終回、5人が10射を終えて、これまでの最高の中は斉藤の9中。皆中を目指す小牧が甲矢を的中させる

と拍手と同時に、射場は一気に緊張感に包まれた。

会場内の視線は、10射皆中での優勝となるかを決める小牧の最後の一本に集中する。場内は静まり返り、吹き過ぎていく風の音と、鳥のさえずりだけが響いていた。小牧は冷静に弓を引く。会場にいる全員が固唾を飲んで見守った。放たれた矢が的に吸い込まれる。的中した瞬間、静寂に包まれた客席から優勝を称える歓声と拍手がわき起こった。10射皆中を果たした小牧は、実に29年ぶりに再び皇后盃を手にとることとなった。この時点で、9中の斉藤は2位が確定。

すべての立が引き終わり、8中が初出場の篠田淳美（大阪）、岩切久実（宮崎）、出越雅子（徳島）の3名となったため、3位から5位までを決める遠近競射が行われた。その結果、3位は篠田、4位は岩切、5位は出越に決定した。

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
1	五味 真紀	山梨	3	1475	13	○	×	○	○	×	×	○	×	○	○	6		
2	星野 信子	愛知	2	1475	14	×	○	×	○	×	×	×	×	×	○	3		
3	久保川富美子	北海道	2	1473	16	×	×	○	×	×	○	○	○	○	×	5		
4	篠田 淳美	大阪	3	1472	17	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	8	1	3
5	川村 香	和歌山	3	1487	3	×	○	○	×	○	○	○	○	×	○	7		
6	齋藤 往子	東京	2	1489	2	×	○	○	×	○	○	×	○	○	○	7		
7	西田 郁子	福島	2	1477	11	×	×	○	○	○	×	○	○	○	×	6		
8	佐々木淑子	秋田	3	1475	12	×	○	○	○	×	○	○	×	×	×	5		
9	伊藤紀美子	三重	3	1485	4	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	7		
10	月輪由紀子	福井	3	1477	10	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	2		
11	大西由紀子	岡山	3	1470	20	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	3		
12	岩切 久実	宮崎	3	1484	6	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	8	2	4
13	斉藤美智子	静岡	4	1493	1	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9		2
14	有澤 千秋	鳥取	3	1485	5	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	5		
15	蕪木由紀枝	福島	2	1471	19	×	×	×	○	○	○	○	×	○	×	5		
16	岸 恵理子	青森	3	1472	18	○	×	○	×	×	×	×	×	○	×	3		
17	出越 雅子	徳島	2	1483	8	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	8	3	5
18	笠倉 幸子	栃木	4	1474	15	○	×	○	○	×	○	○	×	×	○	6		
19	高井 幸子	福島	2	1482	9	×	○	×	○	○	○	○	○	×	○	7		
20	小牧 佳世	京都	3	1483	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		1



柴田猛全日本弓道連盟会長から
優勝した小牧に皇后盃が手渡された



決勝戦を見守る観客



第3位＝篠田淳美錬士五段（大阪）



最高得点賞・第2位＝斉藤美智子教士七段（静岡）



第5位＝出越雅子教士八段（徳島）



第4位＝岩切久実教士六段（宮崎）

入賞者喜びのコメント

◎優勝Ⅱ小牧佳世教士六段（京都）

「実は3年前、大病をいたしました。それがこうして、いろいろな方々の助けにより復帰することができました。それから、助けていただいたみんなに報いようとずっと頑張ってきましたので本当に嬉しいです。復帰は容易なことではなく、まず8カ月弓が引けなくなりました。弓が引けるようになって、そこから2年連続で全日本の予選落ちを経験しました。そして今回、3年がかりでやっと決勝に出場できました。

「久しぶりの選手権出場で、まさか自分が最高得点賞を貰えると思っていませんでしたので驚いています。昨日おめでとうと言われて嬉しい反面、切り替えがちゃんとできずにいた部分もあります。それが決勝の一本目に出てしまいました。最後の2回の立（たち）が、あともうちょっとだ、あともうちょっとだという気持ちで、もし外し始めたなら止まらないような気がして、ずっと緊張しっぱなしだったので選手権は怖いなと思いました。

「稽園に入るのをきっかけにまた再開しました。今後は、もちろん全日本のような大きな大会に機会があれば出させていたきたいと思っています。あとは、教本にある正射必中を求めて一生懸命お稽古をしていくだけです。弓道は厳しい中にも楽しさもあります。また、厳しい面があるのも楽しいなと思っています。今後、もずっと続けたいです」

▽4位Ⅱ岩切久実教士六段（宮崎）

「2年連続で4位、嬉しいです。今日は普段どおりに引くことができました。今後は1つでも上にあがれるよう頑張りたいと思います」

▽5位Ⅱ出越雅子教士八段（徳島）

「31回目の選手権大会が終わり、ほつとしています。今回は最後になるかもしれませんので、一生懸命頑張りました。普段通りというよりは、適度な緊張感を持って精一杯悔いのないようと思っています。今後は、『あの人のような弓を引きたい』と思ってもらえるような、弓引きになりたいと思っています」

「弓道は集中することによって、いろいろな部分で気持ちが入れ替えられます。また、気分転換もできるし、中ることでスカッとする気持ちになります。それが魅力だと思います」

▽3位Ⅱ篠田淳美錬士五段（大阪）

「言葉になりません。この選手権は夢のようなところでした。今回思いがけず出場させていただいて、一生懸命やっているうちにここまでくることができました。

「弓道は高校ではじめ、その後も弓道をしたという思いはありながらも全然取り組めずにいて、子供が幼

○最高得点賞・2位

Ⅱ齊藤美智子教士七段（静岡）

「いま国体の監督になっていいますので、今後もし若い子たちが育つよう、できるだけ指導にも力を注ぐことができたと思っています」



女子入賞者Ⅱ（左から）出越、篠田、小牧、齊藤、岩切

第58回全日本実業団剣道大会

西日本シティ銀行（本店）が接戦を制して初優勝



決勝副将戦＝西日本シティ銀行・濱地（左）の胴が決まる



決勝先鋒戦＝西日本シティ銀行・甲斐（右）が小手を狙う

第58回全日本実業団剣道大会（主催Ⅱ全日本実業団剣道連盟）は、9月21日に日本武道館で開かれ、全国から過去最高の359チームが集まり、実業団剣道日本一が争われた。

決勝は、西日本シティ銀行（本店）と伊田テクノス（本社）が対戦。勝者数は2―2で同点だったものの、本数差（1本差）により西日本シティ銀行（本店）が勝利。西日本シティ銀行（本店）は58回の大会を通じて初めての優勝を果たした。

試合は、5人制の団体戦で行われ、試合時間は1回戦から準々決勝までが3分間、準決勝と決勝は4分間で、時間内に決しない場合は引分けとした。また、チームの勝敗は勝者数により決せられ、勝者数が同数の場合は勝本数で、さらに勝本数が同数の場合は、時間無制限による代表戦（一本勝負）で争われた。

◆準々決勝

準々決勝に進んだのは、東レ（滋賀）、トールエクスプレスジャパン（本社）、三井住友銀行（本店）、西日本シティ銀行（本店）、富士ゼロックス（本社）、伊田テクノス（本社）、NTT、西日本シティ銀行（福岡）の8チーム。昨年優勝の東洋水産（本社）は4回戦で敗退した。

東レ（滋賀）対トールエクスプレスジャパン（本社）は、代表戦で、トールエクスプレスジャパン・信田が東レ（滋賀）・三雲を面で退け、チームの勝利を決めた。

三井住友銀行（本店）と西日本シティ銀行（本店）の対戦は、西日本シティ銀行（本店）が本数差（1本）で勝利し、準決勝進出。

富士ゼロックス（本社）と伊田テクノス（本社）の対戦は、副将戦が終わって1―1と同点。伊田テクノス大将・橋本は、試合開始約2分、相手の手元が上がったところを見事に捉えて小手あり。伊田テクノスが準決勝に進んだ。

NTTと西日本シティ銀行（福岡）の対戦は、大将戦が終わって2―1で並び、代表戦にもつれ込む。西日

本シティ銀行（福岡）の関が胴を決め、一度は旗が上がるが、その後、協議となり、取消し。試合再開後、今度はNTTの齊藤が面を決めて辛くも準決勝進出を果たした。

◆準決勝

伊田テクノス 2―1 NTT

○内田裕司コメ 齊藤将吾

○奥島和泉 ーメ兵藤裕則○

○水森大貴 コー 竹越 充

○石山邦良メーコ 榎本雄斗

橋本圭一 ー 下村和弘

先鋒戦、伊田テクノスの内田が面と小手で二本勝ち。次鋒戦は、NTT・兵頭が面2本で勝利。中堅戦は伊田テクノス・水森が小手で一本勝ちして決勝に王手をかける。続く副将戦、伊田テクノス・石山が面で先制する。この試合を落とすと敗退が決定するNTTの榎本は、面を打つフェイントから、すかさず小手を打って一本を取り返すなど、意地を見せる。しかし、その後、石山が見事な面を決め、二本勝ちで勝負あり。伊田テクノスが大将を残して初の決勝進出を決めた。

西日本シティ銀行（本店） 2―0 トールエクスプレスジャパン

○甲斐勇太 ドー 三好恭兵

○内野辰彦 ー ド 谷村将樹○

○本川亮介 ー ー 石井秀平

濱地佳祐 ー ー 信田勇太

渡辺雄太 コーメ 吉田真佐義

代表戦

○甲斐勇太 メー 石井秀平

先鋒の西日本シティ銀行・甲斐が胴を決めて先勝するが、次鋒戦でト

ールエクスプレスジャパン・谷村も胴で勝ちを収めて一勝一敗で並び。中堅・副将戦を引き分け、迎えた大将戦。トールエクスプレスジャパン・吉田が面を決め先制するが、西日本シティ銀行・渡辺が小手を返して引分けに持ち込み、勝負の行方は代表戦へ。西日本シティ銀行・甲斐は試合中盤、トールエクスプレスジャパン・石井の小手の打突後に空いた面を冷静に打ち抜き、西日本シティ銀行を決勝の舞台に導いた。



準決勝副将戦Ⅱ伊田テクノス・石山（左）が面を決める



準決勝副将戦Ⅱ西日本シティ銀行・甲斐（右）が攻める



決勝先鋒戦＝西日本シティ銀行・甲斐（左）が面で先勝

決勝大将戦Ⅱ西日本シティ銀行・渡辺（左）
対 伊田テクノス・橋本



◆決勝

西日本シティ
銀行（本店） 2―2 伊田テクノス

（本数差「1本差」により勝利）

○甲斐勇太メ③ー 内田裕司

内野辰彦 ー 奥島和泉

本川亮介 ーメ 水森大貴○

○濱地佳祐 ドー 石山邦良

渡辺雄太 ーメ 橋本圭一○

先鋒戦、西日本シティ銀行・甲斐は相手が不用意に間合いを詰めたところを小手を決めて先制。さらに甲



決勝中堅戦Ⅱ伊田テクノス・水森（右）が面を決める

斐は、伸びのある面を決めて2本勝ち。次鋒戦は、引分け。中堅戦は試合開始1分30秒、伊田テクノス・水森が面で先制。水森はこのリードを守り切り、勝ち星をタイに戻す。副将戦、西日本シティ銀行・濱地は伊田テクノス・石山が面を打ってきたところに鮮やかな面返し胴を決めて一本勝ち。そして、勝負のかかった大将戦。伊田テクノス・橋本、西日本シティ銀行・渡辺の両者が積極的に前に出る。互いに果敢に打ちあうも一本とはならない。試合終了間

際、橋本が面を決めて、意地の一本勝ち。伊田テクノスは勝利数で並ぶも、1本の本数差で西日本シティ銀行が紙一重の勝負を制した。西日本シティ銀行は58回目の大会にして嬉しい初優勝を手にした。



優勝Ⅱ西日本シティ銀行（本店）

◎優勝Ⅱ

西日本シティ銀行・古賀裕章監督

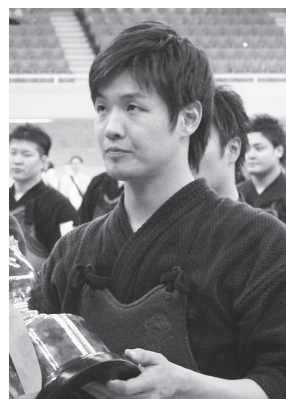
「優勝を目指して稽古していましたので優勝を勝ち取れて良かったです。仕事をしながらの練習でしたが、剣道部員が練習に打ち込めるように会社全体で選手を応援してくれました。また、ほぼ全員の部員が休日を返上して練習に出て稽古に励んでいましたので、優勝はその努力の結果だと思います。今年は初戦から厳しい試合ばかりで、ぎりぎりの戦いでした。チーム力で勝ち上がった大会だったと思います」



優勝が決まり、喜びに沸く西日本シティ銀行の選手たち

◎最優秀選手賞Ⅱ

西日本シティ銀行・甲斐勇太選手



「今までずっと日本一を目指して稽古してきたので素直に嬉しいです。優勝を目標に稽古してきて、大会にもその思いを持って臨みました。ですが、試合では先のことは考えず、目の前の試合で自分の出せる技、練習してきた技を全部使おう、ということしか考えていませんでした。それが良い結果に結びついたのだと思います。最優秀選手にはまさか自分が選ばれるとは思っていませんでしたので驚きました。とても光栄です。これに驕らず、今後の試合への弾みとしていきたいです。来年はチームのメンバーも変わるとは思いますが、日頃の稽古をしっかり続けて、また必ず優勝したいと思います」



3位＝トールエクスプレスジャパン（本社）



2位＝伊田テクノス（本社）



3位＝NTT



【大会結果】

- ▽優勝Ⅱ西日本シティ銀行（本店）
- ▽2位Ⅱ伊田テクノス（本社）
- ▽3位Ⅱトールエクスプレスジャパン（本社）、NTT
- ▽敢闘賞Ⅱ東レ（滋賀）、西日本シティ銀行（福岡）、富士ゼロックス（本社）、三井住友銀行（本店）

全日本学生柔道体重別選手権大会

男女全ての階級で初優勝

全日本学生柔道体重別選手権大会
(男子34回・女子31回) が10月3日・
4日に日本武道館で開催され、男女
各7階級で学生日本一を目指して熱
戦が展開された。

男子

▽60kg級

決勝は、青木大(日本体育)と昨
年準優勝の林浩平(国士館)の顔合
わせ。試合は終始、青木が主導権を
握る展開。足技で揺さぶりをかける
青木は開始1分30秒、払巻込で林か
ら有効を奪取。その後は逆転を狙う
林の反撃を凌いで青木が逃げ切っ
た。

▽66kg級

決勝は、藤阪太郎(国士館)と磯
田範仁(国士館)の先輩・後輩対決。
藤阪が右、磯田が左のケンカ四つ。
先輩である藤阪が組手争いを優位に
進め、磯田はなかなか技が出ない。
試合中盤、内股で磯田の身体がぐら
ついたところで藤阪が膝つきの背負
投を仕掛けると、磯田は堪えきれず
に一回転して一本。先輩の意地を見
せた藤阪に軍配が上がった。

▽73kg級

決勝は、福岡克仁(日本)と三井
大輝(国士館)の対戦。先攻したのは
三井。再三背負投を仕掛け、福岡
から技有を奪い、リードする。先制
された福岡だったが、焦らず機を窺
う。三井は技有を奪った後も攻撃の
手を緩めず攻めるが、決まらない。
試合開始3分、逆に福岡が内股から
素早く大内刈を繰り出す。堪える三
井を、けんけんで場外まで追い詰め
ると、三井はたまたま背中から落ち
て一本。福岡が逆転勝利を収めた。



66kg級決勝＝藤阪(右)が背負投で一本勝



100kg超級決勝＝小川(左)が大外刈で延長戦を制した

▽81kg級

決勝は佐藤正大（国士館）と小原拳哉（東海）の対戦となった。佐藤が右、小原が左のケンカ四つ。序盤から組手争いが続き、お互いになかなか技に繋がらない。しかし、開始3分40秒、佐藤が背負投で技有を取って均衡を破る。その後、逃げ切りを図る佐藤に防御姿勢での指導が重なるが、そのまま逃げ切って初優勝。

◎優勝Ⅱ佐藤正大（国士館）

「相手は高校3年生の大会の決勝で負けた相手でした。今回こそは勝つんだという思いで戦いました。鈴木



81kg級決勝＝佐藤（左）の渾身の背負投が決まる

監督からは、疲れて組手が雑になる後半でも、妥協せずに自分の組手を徹底して戦えと指示が出ていました。今後は東京オリンピックを目標に、組手、寝技を磨いてゆきたいです」

▽90kg級

決勝に勝ち上がったのは、江畑丈夫（国士館）と古居領悟（東海）。互いに慎重な組手で試合は膠着（こうちやく）の一瞬の隙をついて江畑が古居の側面に入り込むと内股一閃。古居を畳に叩き付け、見事な一本勝ちを飾った。



90kg級決勝＝江畑（右）の内股が古居を捉える

▽100kg級

決勝は、阪本健介（東海）対後藤隆太郎（慶應義塾）の対戦。試合中盤、奥襟を掴んだ阪本が大外刈を仕掛ける。不意をつかれた後藤は懸命に堪えるが、阪本は強引にねじ伏せて技有を奪う。後藤は残り時間で逆転を狙うが、阪本は冷静にいなして初優勝を果たした。

▽100kg超級

決勝には小川雄勢（明治）と黒岩貴信（筑波）が勝ち進んだ。試合は徐々に小川が黒岩を圧倒。しかし、



100kg級決勝＝阪本（左）が大外刈で技有を奪う

時間内に勝負はつかずゴールデンスコアの延長戦へ。小川は黒岩が強引に大外刈に来たところを大外刈りで返して有効。小川が1年生ながら100kg超級を制覇した。

◎優勝Ⅱ小川雄勢選手（明治）

「めちゃくちゃうれしいです。1試合、1試合勝つのに精一杯でしたが、最後まで集中力を切らさずにやれたと思います。東京オリンピックも目標ですが、5年も先のことなので、まだまだ考えられないです。今はとにかく、目の前にある試合を頑張りたいです」

■女子

▽48kg級

決勝では小山亜利沙（帝京）と名田ちひろ（立命館）が対戦。試合は小山が積極的な技を仕掛けて前に出る展開。中盤、内股で技有。休まず攻め続ける小山に名田は防戦一方。大内刈が決まって合わせ技一本。

▽52kg級

決勝は、ユニバーシアード王者の内尾真子（筑波）と森由芽香（帝京）の顔合わせ。試合では両者ともに良い形を作れず、一進一退。試合中盤、



48kg級決勝＝小山（手前）が内股で技有

森に片襟の指導が入る。結局、この指導が決勝点となり内尾が優勝。

◎優勝Ⅱ内尾真子選手（筑波）

「勝ってホッとしています。昨日は眠れませんでした。周りは勝って当たり前と考えていたのかもしれないが、自分としては挑戦者の気持ちでした。次は、講道館杯で結果を残してひとつずつ上にいきたいです」

▽57kg級

決勝は、白井杏（淑徳）対月野珠里（山梨学院）。両者一進一退の攻防が続く。終了15秒前、白井が低い



52kg級決勝＝内尾（右）が攻める

体勢から放った内股で月野がバランスを崩して畳に落ち、有効の判定。これが決勝点となり、試合終了。

▽63kg級

決勝は、フィリピン代表として今年の世界選手権にも出場した渡邊聖未（早稲田）と今年のユニバーシアード金メダルの津金恵（筑波）の対戦。試合は、終了5秒前に渡邊が津金の背中を掴むと同時に、豪快な大外刈を繰り出して有効を奪って勝利。渡邊がこの大会での早稲田大学柔道部史上初の優勝を果たした。



57kg級決勝＝白井（左）対月野



63kg級決勝＝渡邊（左）の豪快な大外刈

▽70kg級

決勝に進んだのは、東京予選優勝の池絵梨奈（国士館）と昨年王者の佐俣優衣（帝京）。序盤から積極的に前に出て技を仕掛ける両者が激しく攻め合う。開始1分40秒、先に十分な組手になった池は大外刈を仕掛け、堪えた佐俣を強引に腕力で畳に叩き付けて有効を奪う。池はそのまま上四方固で、がっちり抑え込んで一本。嬉しい初優勝を飾った。

▽78kg級

決勝は前回準優勝の赤嶺麻佑（帝



70kg級決勝＝池（上）対佐俣。池が上四方固で一本勝



78kg級決勝＝赤嶺（左）の内股が決まる

京）対西田香穂（山梨学院）。赤嶺

は序盤から足技で西田に揺さぶりをかけるも時間内で勝負がつかず延長戦へ。待てが掛かって試合再開直後、組み際に赤嶺の内股が決まって有効。赤嶺が涙の初優勝を遂げた。

◎優勝Ⅱ赤嶺麻佑選手（帝京）

「個人戦で日本一になったのは初めてです。決勝は勝ち負けより、4年間やってきたことを出し切りたいという思いが強かったです。センスもなく技も切れない自分でも、頑張ってきた事は実るんだなと思って、試合後には涙ができました」

▽78kg超級

決勝は、山本沙羅（大阪体育）と前回王者の井坂希望（山梨学院）の対戦。山本は試合開始直後から気合い十分に攻めかかる。勢いそのまま、試合中盤に山本が大内刈で技有。山本はその後井坂に圧力をかけ続けて反撃を許さず、試合終了。山本が初タイトルを手にした。

【大会結果】

■男子

▽60kg級①青木大（日本体育）②林浩平（国士館）③齋藤昂矢（鹿屋体育）、田中崇晃（筑波）

▽66kg級①藤阪太郎（国士館）②磯田範仁（国士館）③田川兼三（筑波）、橋口祐葵（明治）

▽73kg級①福岡克仁（日本）②三井大輝（国士館）③宮山翔多（山梨学院）、竹内信康（筑波）

▽81kg級①佐藤正大（国士館）②小原拳哉（東海）③中上駿（早稲田）、尾方寿應（東海）

▽90kg級①江畑丈夫（国士館）②古居頌悟（東海）③野々内悠真（明治）、長倉友樹（筑波）

▽100kg級①阪本健介（東海）②後藤

隆太郎（慶應義塾）③佐藤和哉（日本）、飯田健伍（山梨学院）

▽100kg超級①小川雄勢（明治）②黒岩貴信（筑波）③遠藤翼（国士館）、砂田勇登（国士館）

■女子

▽48kg級①小山亜利沙（帝京）②名田ちひろ（立命館）③渡辺愛実（仙台）、山崎珠美（山梨学院）

▽52kg級①内尾真子（筑波）②森由芽香（帝京）③中村くるみ（帝京科学）、志々目愛（帝京）

▽57kg級①臼井杏（淑徳）②月野珠里（山梨学院）③益子楓彩奈（山梨学院）、出口クリスタ（山梨学院）

▽63kg級①渡邊聖未（早稲田）②津金恵（筑波）③安枝香奈（環太平洋）、土井雅子（環太平洋）

▽70kg級①池絵梨奈（国士館）②佐俣優衣（帝京）③矢澤紗瑛（山梨学院）、長内香月（山梨学院）

▽78kg級①赤嶺麻佑（帝京）②西田香穂（山梨学院）③志賀成美（仙台）、泉真生（山梨学院）

▽78kg超級①山本沙羅（大阪体育）②井坂希望（山梨学院）③月波光貴穂（帝京）、井上あかり（環太平洋）

空手が提案されることが決まり、万歳する子供たちと全日本空手道連盟関係者(日本空手道会館)



空手を追加種目へ提案

2020 年東京五輪組織委員会

9月28日、港区で(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、「空手」など5競技18種目を追加種目として、IOC(国際オリンピック委員会)に提案することを発表した。

提案された追加種目は、「野球・ソフトボール」2種目、「空手」の形と組手、男女合わせて8種目、「スケートボード」4種目、「スポーツクライミング」2種目、「サーフィング」2種目の計5競技18種目。

空手は日本発祥で世界各地に広まった競技であり、日本のスポーツ文化を世界に発信し、日本開催ならではの大会イメージを印象づけるとして選ばれた。

今回提案された追加種目は、2016年のリオデジャネイロオリンピック開幕直前の8月に開かれるIOC総会にて正式に決まる。

この発表を受け、江東区の日本空手道会館には、世界空手道連盟、全日本空手道連盟、極真会館の関係者、国内外の選手や未来の空手界を担う子供たちが大勢集まり、悲願の空手

オリンピック種目採用実現への大きな前進に喜びの声が上がった。

記者会見後の質疑応答では、会場について質問があり、笹川堯全日本空手道連盟会長は「日本武道館で空手道のオリンピックを行うことは、我々の夢であり責務であります」と力強く答えた。

最後に、笹川会長と中継先のアントニオ・エスピノス世界空手道連盟会長は2020年に向け、ともに努力をしていくことを誓い合った。



記者会見にて御手洗富士夫種目追加検討会議座長(右から2番目)より追加種目が発表された(東京2020組織委員会虎ノ門オフィス)

オリンピックへ向けて大きく前進 空手道界喜びの声

●ささがわかし
笹川 堯・全日本空手道連盟会長



●なぐさひさし
奈藏 稔久・世界空手道連盟事務総長



「関係団体の皆様にご理解とご支援をいただき、空手道がオリンピック種目として提案されました。誠に喜ばしいことでございます。我々の希望した種目数である組手の4階級が3階級になりましたことは、これから出場する選手の皆様にとつて大きな負担になり、心配事があります。体重差をいかに克服していくか、選手の皆様の今後の課題については、我々が一層努力をしていかなければなりません。来年、I O C総会で決着がつくまでは、仮登録という気持ちで、より一層外交に力を入れ、世界各国の皆様、空手の良さをご理解賜り、伝統と歴史に育まれた日本の空手道が永遠にオリンピック種目として残れるように、絶え間ない努力をいたしたいと思います」

「1999年、空手がI O Cに承認されて以来、幾度となく挑戦しながらも、オリンピックの道を閉ざされました。今日、ようやくその扉が開かれました。全世界全ての空手愛好者、これまで特別のご尽力を賜りましたW K F（世界空手道連盟）、J K F（全日本空手道連盟）等すべての関係者、諸該活動のご支援をいただいた皆様、また、志半ばで逝った先人方、すべての皆様に慎んでご報告申し上げます。そして、深甚なる感謝の意を表したいと思えます。正式決定まで、W K Fは全世界の空手家とともに、全力で活動を続けてまいります。笹川会長をはじめとするJ K Fの皆様、関係各位の皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願いいたします」

●アントニオ・エスピノス

世界空手道連盟会長



「一番最初にでてくる気持ちは感謝です。この空手の提案を実現するために、W K Fの活動に対して、ご支援いただいた皆様、ありがとうございます。おかげさまでとても偉大な成果を残すことができました。形と組手、計8種目が選ばれたことに大変満足しております。来年のI O C総会で、空手が最終的に決定するまで、W K Fとして活動を続けてまいります。また、空手発展のためにもこれからも弛まぬ努力を続けてまいります」

●かがわひさし
香川 幸允・ナショナルチーム、雷神ジャパン、男子キャプテン



「2020年、東京オリンピックで金メダルを取るといふ夢が一つ近づきました。出場する競技全てで結果を残し、観ていただける方

に感動を与えられるよう、日々の稽古に精進してまいります」

●そめやかよ
染谷 香予・ナショナルチーム、雷神ジャパン、女子キャプテン



「今回、空手道がオリンピックに大きく近づいたことを大変嬉しく思っております。スポーツがたくさんの人に感動を与えることは言葉では表現できない部分があります。まずは、私たち選手が少しでも多く空手の魅力を伝えることができるよう、力強い試合をしていくことが大切だと思っております。今まで以上に精進してまいります」

●たかのまひる
高野 万優・空手アンバサダー



「オリンピック追加種目に空手選ばれてすごく嬉しいです。これからたくさん練習をして、オリンピックに出て金メダルが取れるように頑張りたいです」

シンポジウム

空手道パラリンピック種目化を見据えて

障がい者が変わる 障がい者が変える

10月1日、シンポジウム「空手道パラリンピック種目化を見据えて」(主催・国際武道大学)が日本空手道会館にて開催された。2020年東京パラリンピックでの実施競技は決定済みで、空手道の追加予定はないが、2024年以降の空手道パラリンピック種目化について機運を高める狙い。



シンポジウムの様子



田中俊祐選手の演武

パネリストは、ウルフガンゲ・ワイガート世界空手連盟理事、奈藏稔久世界空手連盟事務総長、日下修次全日本空手道連盟事務局長、松井完太郎国際武道大学教授、三村由紀防衛大学校講師の計5名。

シンポジウムでは、日本で10年前から全国障害者空手道競技大会が開催されていること、昨年ドイツで開催された世界空手選手権大会において、正式に世界障害者空手道選手権大会も開催されたことを踏まえ、次の4点について議論された。

①空手道は身体機能が制限された状況で、いかに相手の攻撃をさばくかを考究することを前提としている点で、本来的に障がい者にも開かれ

た体系を持っていること。

②障がいがあっても一般大会には参加可能で、これまでも障がいがありながら優秀な成績を残した者がいること。

③先の世界選手権で採用された障がいに応じた加点システムは、公平性とトップアスリートが出場するパラリンピックにおけるメダル価値の維持にも極めて有効であること。制度改善策も既に準備されていること。

④空手道は健康スポーツでもあり、リハビリでも利用されている。また、障がい者への指導法は、健常者にも非常に有効であること。

以上のことから、参加者全員が「空手道のオリンピック・パラリンピック正式種目化への準備はすでに整っている」と確認し合い、シンポジウムは幕を閉じた。

武道の心 伝えたい。



ミツボシは武道を通じて、日本の精神・文化を多くの人々に伝えていきます。そして、武道発展のため品質の向上、開発に日々たゆまぬ努力を重ねています。

武道用品の総合メーカー
株式会社 ミツボシ
URL: <http://www.mitsuboshi-web.jp> e-mail: webmaster@mitsuboshi-web.jp

本社 / 〒162-0845 東京都新宿区山谷本村町2番11号 外濠スカイビル9階
TEL (03) 6457-5601 FAX (03) 6457-5981
大阪店 TEL (06) 6445-6285 仙台店 TEL (022) 288-1391 福岡店 TEL (092) 474-8411